

諫早湾

アサリ貝が大量死

佐賀近くまで 赤潮原因か

国の干拓事業が進む長崎県諫早湾入り口の小長井町沖合で、八月初めから中旬にかけてアサリ貝が大量に死んだことが同県の調べで二十五日、明らかになった。小長井町漁協組合員らが養殖しており、被害は推計で一億円近いとも言われ

る。県漁政課は原因について、七月下旬から八月初めにかけて発生した赤潮で酸素不足になったため、と見ている。

小川原浦名付近を中心佐賀県境近くまでの養殖場で被害が広がり、二十日ごろまで続いた。

諫早湾の湾口では、七月下旬に赤潮が発生して八月初めまで消えなかった。県の調査では、スズキやボラなどの魚が大量に死ぬ被害

が出た。「シャットネラ アンテイカ」という緑色ベアン毛藻類のプランクトンの異常繁殖だった。同県では当初「貝に被害を及ぼすプランクトンではない」との見方をしていた。

県漁政課では「干拓事業の影響かは分からない」と言っている。一方、小長井町漁協の新宮隆喜組合長は「以前は赤潮が発生しても短期間で消えていた。調整池の水質浄化や放流の仕方

を工夫してほしい」と言っている。

常繁殖が原因で、シャットネラは魚類に大きな被害を及ぼすとされる。今回初めてボラやスズキなど天然魚の大量死も確認された。シャットネラによる赤潮は八九年以降、有明海や橘湾で度々発生しているが、他のプランクトンによる赤潮を含めても今回は県内で最大規模。シャットネラの個体数は、これまで海水一リットル中約二万個が最高だったが、今回は最大約五万個を

1998(平成10年)8月27日 長崎新聞 22 社会

諫早湾口

養殖アサリ大量死

最大規模の赤潮原因か



養殖アサリ貝の大量死で経営悪化が懸念される
—北高小長井町の地先養殖場

を檢出した。同課は「干拓事業の影響かどうかは分からない」と話している。

(諫早)

小長井沖に大量の赤潮

漁業者 「干拓で環境変化」

諫早湾

【諫早】国営諫早湾干拓事業が進む諫早湾口の北高小長井町沖合に赤潮が大量発生していることが三十日、分かった。今夏には赤潮の大量発生が原因とみられる養殖アサリ貝の大量死も起きており、同町漁協は「潮受け堤防排水門から出される富栄養化した大量の水が赤潮の原因だ」として警戒を強めている。

同町漁協によると、赤潮は今年二十五日ごろ発生。三十日には高来町地先の潮受け堤防北部排水門付近から幅一キ、長さ千数キにわたって帯状に広がっていたという。魚類の大量死は今のところ確認されていないが、小長井町の沿岸では漁業者が九月末からアサリ貝の稚貝を放流しており赤潮の影響が心配されている。県水産部によると、今回の赤潮はフィプロカプサ・ジャポニカというプランク

トンの異常繁殖が原因とみられており、今夏の赤潮の原因シヤットネラ・アンテナイカというプランクトンとは異なるという。一ミリの当たりの個体数は今のところ二千個。これに対し今夏のシヤットネラ・アンテナイカは最大五万個。県総合水産試験場は「個体数がこれ以上、増えなければアサリ貝が酸欠状態で死ぬようなことはないだろう」との見方を示している。

一方、九州農政局諫早湾干拓事務所と県水産部は三十一日、排水門から調整池の水が拡散する状況を把握するため海上調査を実施する予定。同干拓事務所は「調査はあくまで水の拡散や水質を把握するためのもの。赤潮の発生との関連を調べたものではない」としている。同町の漁業者は「干拓時に排水門から大量の水が出る。いったん水は有明海に広がるようだが満潮時に押し戻されており、小長井の沖合は調整池の水が滞留

している。潮流も潮受け堤防ができたことから変わってしまっている。この時期に赤潮の発生はこれまでなかった。干拓事業の影響で環境が変わったせいとしか考えられない。原因をはっきりさせてほしい」と強い口調で話している。

諫早湾口部の長崎・小長井町

養殖アサリ 赤潮で「全滅」

開拓事業の進む長崎県・諫早湾に面した同県小長井町で八月下旬、赤潮が発生し、養殖アサリが大量に死滅していたことが十七日、分かった。同県漁政課などの調べでは、被害額は約一億五千万円。赤潮は今年夏の高温小雨による養殖アサリの大量発生が一因とみられるが、漁業関係者から開拓事業の影響を指摘する声も出ている。

漁業関係者 「開拓が影響」

同課によると、赤潮はシャットネラ・アンティ（一九七七年の諫早湾干拓発生しやすい環境を指す）に類する有明海沖カが海水一リ中からの潮受け堤防閉め切り後、赤潮の滞留期間が長くなつたようだと、諫早湾干拓事務所は「堤防閉め切り前後の水質調査では、明確な差は出ていない。赤潮は、有明海の広帯をアサリの養殖場とは「有明海全体を浄化」範囲で発生しており、干拓事業との因果関係は「可能性のある干拓事業との因果関係は分からない」として、調査からは「富栄養化した水が流れ、プランクトンの一種、赤潮がな被害は初めて」（一九九八年）と、赤潮が



過去最大規模の赤潮が発生した諫早湾
（9日午後一時半、左、長崎県小長井町沖（本社ヘリから）

諫早湾に赤潮

長崎県の諫早湾干拓事業の潮受け堤防から同県島原市沖にかけて、約四十キロにわたり赤潮が発生していることが九日、分かった。同県によると、今のところ漁業被害の報告はないが、赤潮の発生面積は過去最大規模という。

過去最大級 潮受け堤防から 島原沖まで40キロ

島原水産業普及指導センター（島原市）や小長井町漁協によると、赤潮は七日ごろに発生。ピークは八日で、小長井町沖では海面が一面赤茶色になった。検出されたのは植物プランクトンのクリプト藻で毒性はないが、海水一リ当たり最大四万八千個を確認した。佐賀県太良町沖でも同様の赤潮が発生している。

排水門の排水も一因？
小田達也・長崎大教授（海洋生物学）の話 海水中の富栄養化と温度、塩分などが関係している。排水門からの排水も一つの原因ではないか。プランクトンは消滅した後、海底に沈んで種となる。潮流が弱いとその地域で増殖し、再び赤潮となる。

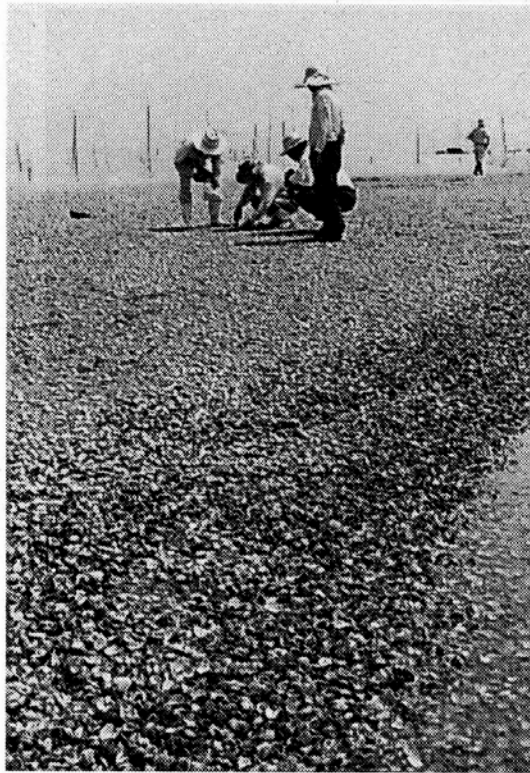
諫早湾では、潮受け堤防での湾奥部閉め切り以降、赤潮が急増。漁業者の間では「潮受け堤防が

工事の早期再開
諫早市長が要望
九州農政局に文書

有明海のノリ不作問題をきっかけに長崎県諫早湾の国営干拓事業が中断している問題で、地元、諫早市の吉次邦夫市長は九日、熊本市の九州農政局を訪れ、「地元の工

関係者は中断で収入が途絶え、生活に困っているとして工事の早期再開を求める文書を提出した。調整池水質保全策話し合いは平行線
漁協と九州農政局
九州農政局は九日、長崎県諫早湾の四漁協組合と小長井町漁協に対し、計画の見直しを強く求めた。

しているのでは」との声が出ていた。しかし、九州農政局諫早湾干拓事務所は「有明海ほかの場所でも赤潮が発生しており、因果関係は分からない」と話している。
同センターが今年確認した諫早湾での赤潮発生は三件目。
五日の説明会で小長井町漁協は、漁場などに影響が少ないように潮受け堤防の中央部で排水することなど改善を求めた。しかし、同局は北部排水門付近にポンプ十基を設置するなどの当初案をあらためて示したため、漁協側は「養殖アサリなどへの被害が懸念される。われわれも生活がかかっている」などと主張し、計画の見直しを強く求めた。



へい死したアサリが散乱する養殖場
＝今月3日、北高小長井町小川原浦名地先

アサリ
大量死
被害額
3000万円超

高水温、酸欠など影響か

小長井

【諫早】今月初旬に北高小長井町の一部分で発生した養殖アサリの大規模な被害、被害額が三千万円を超す見通しを明らかにし、同町漁協は十七日、被害額が三千万円を超す見通しを明らかにした。

被害は養殖十八業者ほどで、このうち同日までに十二業者が被害状況を報告した。へい死量は合計約百ト、被害額は約二千八百万円。未報告分を含めると三千万円を超える見込みで、同漁協は取りまとめを急いでいる。大量死の発生は、同町小川原浦名と井崎名地先の二カ所。同町の養殖場全域の約五分の一に相当する。へい死率は高い所

で六割弱、低い所で一二割程度。同町では昨年八月、赤潮などが原因で養殖場一帯のアサリが大量死し、被害額は約二億六千万円に上った。県によると、今回の被害と赤潮の関連は不明で、高水温や酸欠など複合的要因の可能性が高いという。



大量のアサリの死がい広がる養殖場 十日、長崎県小長井町沖

諫早湾

養殖アサリ大量死

赤潮原因？全滅の漁場も

諫早湾に面した長崎県干拓地寄りの漁場。地元小長井町と高来町で、養殖アサリが大量死していることが同県の調べで分

かった。両町の計十三漁場のうち一カ所はほぼ全滅、七カ所で一―五割のアサリが死んでいた。被害が大きかったのは

一―四割の被害が出ており、今季の被害額は三千万―五千万円とみられている。新宮隆喜組合長は「来春水揚げ予定の稚貝も死んでおり、被害総額

はさらに膨らむ」と表情を曇らせた。同県は九月上旬から発生している赤潮が主因と分析している。赤潮は植物性プランクトンの大量発生によるもの。二日に小長井町沖で発生し、九日も同町沖合に滞留して

いた。一帯では水中の酸素が欠乏する「低酸素水塊」が発生しており、これも影響している可能性があるという。

小長井町では、一九九八年と二〇〇〇年にも赤潮が原因とみられるアサリの大量死が発生しており、漁業者の一人は「国の諫早湾干拓事業に伴う（九七年の）潮受け堤防閉め切り後に、赤潮の滞留期間が長くなったようだ」と話している。

養殖のアサリ 赤潮で大量死
 佐賀・長崎の有明海
 佐賀、長崎県境沖の有明海で赤潮が発生し、アサリ養殖場で貝が大量死するなどの被害が出ている。今ごろ、被害が

確認されたのは佐賀県太良町沖などだけだが、被害が拡大する恐れもあるとして、関係者は危機感を募らせている。
 太良町の養殖場では、口を開けて死んだアサリの殻が、びっしりと干潟の表面を埋めていた。87

年から養殖を続ける平方宣清さん(51)は「14日に腐臭がしたので来てみると、アサリが身をむき出して死んでいた。赤潮で半分ぐらい死んだことはあるが、全滅は初めてだ」と話した。被害額は1千万円以上という。

西日本新聞 39 2004年(平成16年)8月15日

赤潮養殖アサリ全滅

佐賀・太良町沖 被害額は数億円か

佐賀県太良町大浦沖の有明海で赤潮が発生し、同町の海岸にある養殖場(約三万三千平方メートル)のアサリが、ほぼ全滅状態になっていることが十四日、地元の漁業者の話で分かった。

佐賀は同町や同県鹿島市沖で三日に初観測。同県有明水産振興センター(芦刈町)の調べで、毒性が強い「シヤトネラ」と呼ばれるプランクトンなどであることが判明。猛暑で水温が例年より二

三度上昇しており、十日には、同町沖で養殖カキやクチなどが死ぬ被害も発生、赤潮による被害が拡大している。

アサリの養殖場は太良町の牟田尻海岸にあり、大浦漁協の組合員約百人

が管理。今年は来年二月からの漁に備えて禁漁にしていたという。十四日午後の干潮時に大鋸義穂さん(61)ら組合員が腐敗臭に気づき、現場を調べたところ、少なくとも幅三百メートル、長さ一キロ以上に出ているという。

わたってアサリの死がいが出たという。大鋸さん一人だけで被害額は千五百万円としており、全体の被害額は、数億円になるとみられる。大鋸さんは「長年、養殖をやっているが、こんなにひどい被害は初めて」と頭を抱えている。現場の海岸は長崎県小長井町との県境にあり、地元漁民によると、長崎県沖の有明海でも赤潮による被害

有明海の赤潮拡大

有明海で八月中旬から、県の太良町沖から長崎県
広域発生している「平成
最大級」の赤潮はさらに、上空からはしょうゆ
拡大を続けている。佐賀
色に濁った帯状の海域を

ランクトン「シャットネ
ラ」が大量に発生。佐賀
県白石町沖では二十四日
の調査で細胞数が一ミ
中一万三千個と、アサリ
が大量死した二〇〇四年
以来の多さだった。

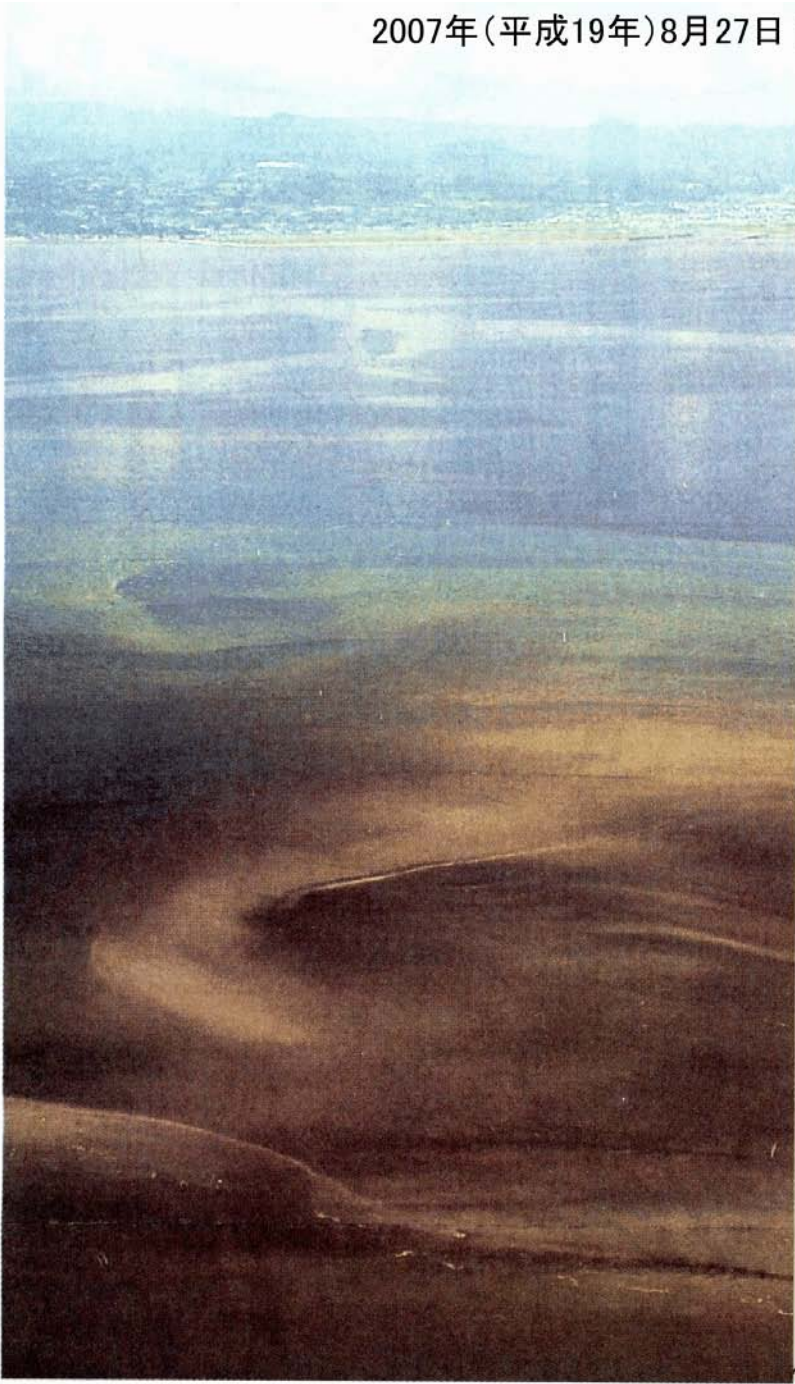
有明海沿岸では死んだ
コノシロやエビが大量に
漂流・漂着しており、同
県は二十七日も調査船を
出し、赤潮の状態に合わ
せ魚介類の被害状況も確
認する。

アサリ大量死 長崎県も確認

有明海の赤潮被害によ
り、長崎県諫早市沖で養
殖アサリが大量死するな
どの被害が出ている。同
県は二十六日に諫早湾の
十二カ所で調査を実施、
同市小長井町の諫早湾十
拓事業の潮受け堤防近く
の養殖場で、アサリがほ
ぼ全滅状態となっている
のを確認した。コノシロ
などの魚類も数十キの被
害が出ているという。

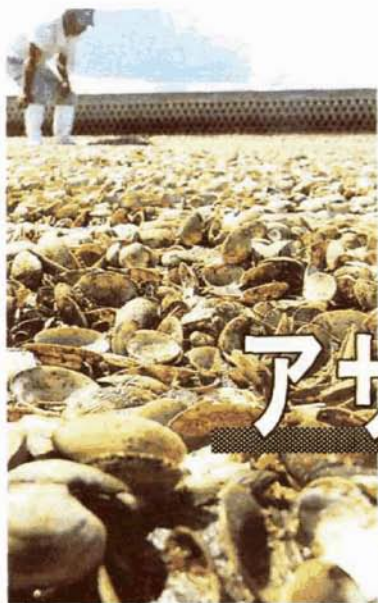
同県は被害実態と赤潮
の調査を進めるとともに
に、漁協と協議しながら
対策に乗り出している。

有明海全域で広がっている赤潮。26日、佐賀県鹿島市沖(本社ヘリから)



有明海の広範囲で八月
下旬、「平成最大規模」
（県総合水産試験場）の
赤潮が発生し、諫早湾の
一部地域で養殖アサリが
全滅するなど漁業被害が
広がっている。有明海で
毎年のように報告される
赤潮被害。漁業者の心理
的、経済的負担は大きい
が、発生を食い止め、被
害を軽減する有効な手だ
てはなく、県や漁協も対
策に頭を悩ませている。

（長崎総局・前田英男、
諫早支局・阿比留北十



大量死したアサリ貝が無数に散らばった小長井町の海岸

諫早湾の赤潮

アサリの被害深刻

打つ手なく苦悩の漁業者

広範囲で異臭

「現在、今回の被害を
は八月下旬に諫早湾
まわっているが、経済的
打撃は大きい。死活問題
だと、やり場のない怒
りを口にした。

諫早湾に面した諫早市
小長井町の小長井海岸。
潮が引いたアサリの養殖
場は、見渡す限り、口を
開けた貝殻で埋め尽くさ
れた。強い日差しを受け、
臭を突く異臭が、一帯に漂
う。

増殖条件整う

「最悪の状態。今後数
年は成育に影響が出るか
もしれない」。空のアサ
リを手に、小長井町漁協
の松水秀則さん(55)は敵
しい表情を見せた。

諫干の影響指摘も根強く

海底付近の酸素が乏しく
なる「貧酸素水塊」の一
因となり、アサリに影響
する可能性が高いとされ
る。

八月の長崎地方は晴天
が多く海水温が上昇。強
風が吹くことなく、潮の
流れも弱かったため、海
中の富栄養化が進み、シ
ヤットネラが大量増殖後
に滞留。「近年では異例」
（試験場研究員）の約三
週間もの長期化につなが
っているという。

因果関係不明

県総合水産試験場の平
野慶二漁場環境科長は

「養殖アサリは、同漁協
組合員のほぼ全員が携わ
る主力産品。養殖場は約
百万平方メートルに及ぶ。水揚
げ量はここ数年減少傾向
にあるが、昨年は約二百
八十八ト、水揚げ高は一
億円を超すアサリ被害
が出ている。漁協関係者
アが大量の酸素を消費

一方、漁業関係者は諫
干との関連を根強く指摘
する。松水さんは「湾奥
部が閉め切られる以前は
貧酸素現象は起きなかつ
た。潮の流れが緩やかに
なり、赤潮が滞留しやす
くなっている」と言う。

視点 07ながさき

を閉め切った一九九七年
まで年間〇―四件で推移
していたが、九八年以降
は四十件と増加してい
る。因果関係について県
水産基盤整備課は「何と
も言えない」。国の公害
等調整委員会も〇五年の
裁定で「科学的知見の面
でなお不十分。関係を肯
定できない」とし、今も
うやむやのまま。

県によると、有明海で
息状態だが、今後も漁業
者の苦悩は続きそうだ。

諫早湾窒息

赤潮直撃アサリ死滅

諫早湾北岸の長崎県諫早市小長井町で、養殖アサリが死滅する被害が起きている。県総合水産試験場によると、有明海で8月上旬から発生した赤潮の影響で海水の酸素濃度が低下したためとみられる。被害を受けた海域は諫早湾干拓事業で建設された潮受け堤防に近い。「堤防で潮流が弱まり、赤潮の被害も大きくなった」との指摘もある。地元漁業者からは「天災ではなく人災だ」との声が上がっている。

(岡田玄)

堤防で潮流弱まる？ 地元漁師ら「人災だ」

小長井町の海岸線。口を開けたアサリが一面に広がり、腐敗臭が漂う。足を踏み入れると「サクサク」と貝殻が砕ける。厚さ10センチに積み重なっているところもある。地元漁業者は「腐敗臭が徐々に東に移動している。被害はもっと広がるだろう」と見る。

沿岸に赤潮が広がったのは8月上旬。定置網のコノシロは全滅。被害が深刻だったのは沿岸一帯に広がる養殖アサリ。長崎県が8月26日に小長井町沿岸の12カ所を調査したところ、3カ所で全滅し、全体では4割が死んでいたという。

全滅したアサリ。漁師たちは大きなため息をついた。8月31日、諫早市小長井町で



揚げ量は05年度で2710万円。長崎県産の大部分を占めている。小長井町漁協では、組合員98人のほぼ全員がアサリ養殖

を手がけており、漁協の全水揚げ高の6割以上を占める収入源だ。畑のようには区画を分け、各漁業者が管理する先進的な養殖方法にも取り組んでいる。

近くの漁師植木清治さん(51)は「補償もなく、どうやって生活していけばいいのか」と嘆く。小長井町は、潮受け堤防の東側。堤防の内側にある調整池から、淡水を定期的に排出する北部排水門の目の前だ。地元漁業者の話では、例年、夏

場に淡水が排水された後に赤潮が発生し、アサリが死ぬことがあるが、これほどの被害は初めてという。同漁協理事の松永秀則さん(54)はこの夏は水温が高く赤潮が発生しやすい状態だったのに排水を繰り返したため、被害が大きくなったのでは。しかも堤防が出来てからは潮流が弱くなり、汚れた水が消えてくれなくなっている」と語る。

長崎大学環境科学部の姫野順一教授(環境経済学)は「調整池から排出される汚れた水が海のバランスを崩し、特に排水門近くのアサリ漁場に大きな影響を与えたのではないかと指摘する。一方、県は干拓事業との関連について、赤潮発生のメカニズムが解明されておらず、直接の原因とは断定できないとしている。

アサリ被害3億円

小長井町漁協 生活保障要望へ

諫早市小長井町の沿岸で養殖アサリが大量死している問題で、小長井町漁協(新宮隆喜組合長、組合員98人)は4日、被害総額が約3億円とする集計結果をまとめた。今後、県や市に生活保障などを要望する。

同漁協幹部によると、これまでに養殖アサリの7割にあたる約120トンが死滅。被害額は過去最大規模という。

被害を受けた海域も拡大。全滅が確認された海域は8月26日の県の調査より、東に1、2キロ広が

っていた。稚貝が死ぬ被害も広がっていることから、来年以降の水揚げにも影響が

出る恐れがある。

同漁協は4日、役員会を開き、対策を検討。組合員から要望の多い生活保障のほか、死んだアサリの撤去、漁場整備などを県や市に要望していくことを決めた。

諫早のカキ 9割死滅

養殖アサリの大量死が8月に発生した長崎県の諫早湾で、11月1日からの販売を控えた養殖カキの約9割が死滅していることが県と小長井町漁協(諫早市)の調査でわかった。夏の猛暑で海水温が下がる時期が遅れたのが原因とみられる。冬の風物詩のカキ焼き小屋が沿岸に並ぶまであとわずか。相次ぐ異変に、漁師たちは困惑している。



「これも死んでいる……」。引き揚げて、殻だけのカキが目立った。30日午前11時59分、長崎県諫早市沖の有明海で、水野義則撮影

アサリに続き…養殖業に打撃 猛暑、水温に影響?

30日、諫早湾を地元の漁師と一緒にボートで10分ほど進んだ。竹で編んだ養殖いかだがいくつも浮いている。長さ2・5メートルのロープを引き揚げてもらった。泥にまみれた殻の固まりが姿を現した。どれも半開きで腐敗臭がする。「わずかに生き残ったカキも小ぶり。出荷できるかどうか」。漁師は肩を落とした。県や同漁協によると、死滅したカキが次々に見つかるようになったのは9月中旬ごろ。今月18日、湾内のいかだ103基のうち20基を調べたところ、カキの生存率は1割前後だった。5%のいかたもあった。

県総合水産試験場によると、例年の生存率は5割前後。夏に高温が続く、海水温の低下が遅れたのが原因ではないかと推測する。11月に完成



「干拓事業が着工してから漁獲高は低迷し、組合員らは10年から新たな振興策としてカキ養殖に取り組んできた。昨年度の水揚げは約173ト、約7千万円。アサリと並ぶ収入の柱だ。漁協幹部は「お歳暮シーズンを前に注文や問い合わせが相次いでいるのに。こんなことは初めて。組合員の生活が心配だ」と顔を曇らせた。沿岸でカキ焼き小屋を毎年開く男性は「例年通り小長井産のカキを出せるかどうか。よその産地のカキを使わざるを得ないだろう」と話した。(奥田聖子、加藤勝利)

諫早湾と隣り合う佐賀県太良町。県と県有明海漁協大浦支所が26日、養殖いかだ19基を調べたところ、7割程度が死滅していた。同漁協の下田貴利支所長は「いい年でも半分くらいは死滅する。今年は稚貝がよくついただけでした」と話す。昨年度は72トだった水揚げは50トとみる。一方、今月からカキ焼き小屋の営業を始めた男性は不安を募らせた。「うちのいかだはほぼ例年並み。有明海のカキ全体が不振のイメージを持たれないか、心配だ」

養殖アサリも被害

諫早湾沿岸
長崎県調査 赤潮継続を警戒

長崎県は十五日、諫早湾に面した同県諫早市小長井町の養殖アサリ漁場で、有明海で発生している赤潮の影響調査を実施した。調査対象の中で死んだ貝の比率を示す「斃死率」は2・1%だったが、一部漁場はアサリの死骸が大量に見つかり、腐臭が漂って

いた。調査は、植物性プランクトンのシャットネラが原因とされる赤潮で小魚やカニなどの大量死が確認されたことを受け、諫早湾沿岸にある小長井町の十一カ所で養殖アサリの被害状況を確認。調査地点のうち八カ所の斃死率は1%以下だったが、

同町釜地区では斃死率14%、同町土井崎地区は同8%などと北部沿岸域で斃死が目立っている状況がわかった。

同県水産基盤計画課は「赤潮は続いており、被害拡大の可能性もある。引き続き注意して見守りたい」としている。

諫早湾沿岸の養殖アサ



諫早湾に面した海岸で大量に死滅している養殖アサリ 15日午後、長崎県諫早市小長井町

りは、昨夏の赤潮でほぼ全滅状態になる深刻な被害があった。

今年と同湾沿岸で七月二十六日に赤潮発生が確認され、今月中旬には地元漁協から養殖アサリの被害の情報が寄せられていた。



諫早湾でアサリ大量死

有明海沿岸で赤潮発生に伴う漁業被害が相次ぐなか、諫早市沿岸のアサリ養殖場で、アサリが大量死していることが5日、わかつた。

同市の小長井町漁協などが調査した。同漁協理事の松永秀則さん(55)の養殖場約5000平方メートルでは、貝

が開くなど約9割が死滅。同漁協によると、国営諫早湾干拓事業・潮受け堤防排水門から遠ざかるにつれ、被害の割合は低いという。

松永さんは「排水門からの排水が原因では。排水門を常時開放し、富栄養化した淡水を急激に流さないようにしなければ、被害は抑えられない」と訴えた。

県総合水産試験場によると、アサリの大量死の原因のひとつとして、大雨により海水の塩分が低い状態が長く続いたことも考えられるという。

諫早湾では、7月下旬か

ら、毒性の強いプランクトン「シャトネラ」による赤潮の発生が拡大している。